

# 5

## 事業の概況 (令和2年度)

### (1) 事業実績

#### ①貯金業務

会員 JA およびその他の取引先から貯金を受け入れました。

この結果、貯金は期末残高 1 兆 4,240 億円、期中 398 億円の減少で、対前年比マイナス 2.7%となりました。



#### ②融資業務

農林系金融機関および地域金融機関として、農業者や農業関連企業、地場産業を支える県内企業に対し取引拡大に努めたほか、金融機関向け貸出やシンジケートローン等に積極的に取り組みました。

この結果、貸出金は期末残高 1,414 億円、期中 92 億円の増加で、対前年比プラス 7.0%となりました。



#### ③余裕金運用業務

安全性や流動性、金利動向等を勘案のうえ、国債等を中心とした安全資産への投資を行う一方、価格変動リスクや為替変動リスクに留意しつつ、株式や受益証券、外貨建外債等への投資も行いました。

この結果、有価証券は期末残高 3,944 億円、期中 268 億円の増加で、対前年比プラス 7.3%となりました。



## ④ JA推進支援業務

コロナ禍においてさまざまな制約を受ける中、組合員・利用者には選ばれる地域金融機関を目指し、利用者のメイン化に取り組みました。特に非対面チャネルのニーズに応えるべくJAネットバンクやJAバンクアプリといったツールの提供に取り組みました。また、住宅ローンやマイカーローンをきっかけとした新たな利用者との取引と貸出金の積上げによる持続的安定収益の確保に向けて16JAが一体的な取り組みを行いました。

この結果、県内のJA個人貯金は、期末残高1兆4,892億円、期中221億円増加で、対前年比プラス1.5%となり、またJA個人貸出金は、期末残高1,981億円、期中140億円増加で、対前年比プラス7.6%となりました。

また、農業メインバンクとして、担い手の農業所得増大を図るべく、県内JAにおいて農業融資推進に注力したことに加え、農業経営の維持継続等を目的とする「JA農業経営維持継続資金」の創設にも取り組みました。

この結果、県内JA農業融資期末残高は84億円、期中85百万円の増加で対前年比プラス1.0%となりました。

## ⑤ 為替・決済業務

JA 組合員等利用者への決済サービスの安全かつ円滑な提供に向けて、日々、決済リスクを適正に管理しつつ決済システムを円滑に運営するとともに、JA に対する現金の安定供給に努めました。

この結果、内国為替取扱高は（仕向）232千件、9,335億円、（被仕向）1,785千件、1兆401億円、手形交換取扱高は（持出）2千件、118億円、（持帰）2千件、99億円、現金供給高は2,359億円となりました。

## (2) 損益の状況

低金利環境が続くなか、利息収入を中心とした運用に加え、有価証券の売買により収益を確保した結果、経常利益は23億56百万円、当期剰余金は20億12百万円となりました。



### (3) 自己資本の状況

内部留保の積み上げによる自己資本の増強に努めたほか、預け金残高の減少等によりリスクアセット額が減少しました。

この結果、バーゼルⅢ国内規制に基づく自己資本比率は対前年比0.51ポイント上昇し、15.03%となりました。

なお、当会の自己資本比率は、国内基準（4%）、国際基準（8%）を上回り、健全な内容となっています。

